

2022/1/4

厚生労働科学研究費 難治性疾患等政策研究事業  
「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」(久松班)

# Summary of Surveillance Epidemiology of Coronavirus Under Research Exclusion (**SECURE-IBD**)

JAPAN IBD COVID-19 TASKFORCE MEMBER

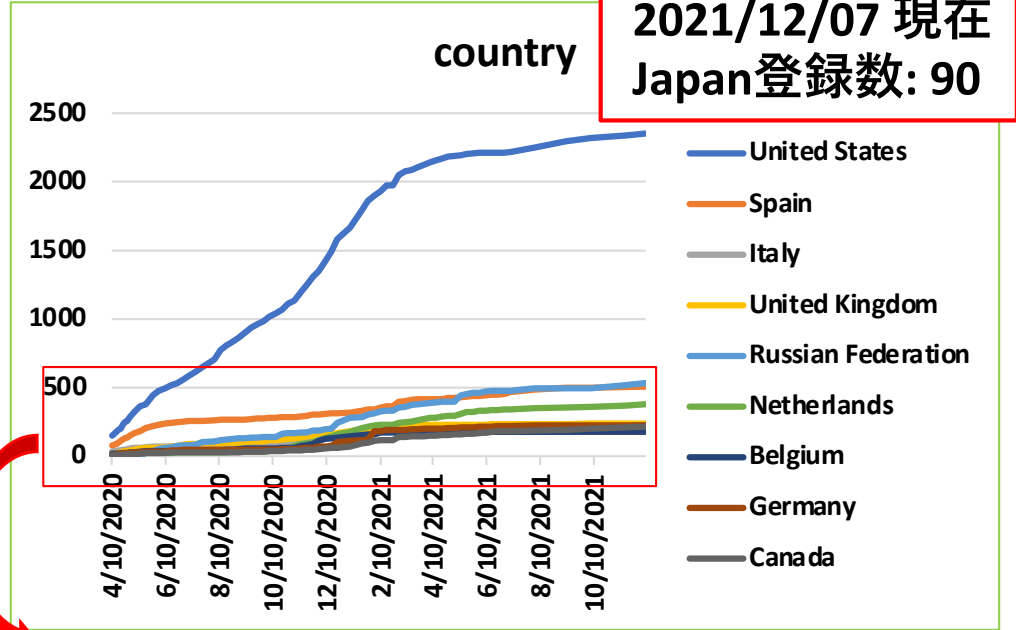
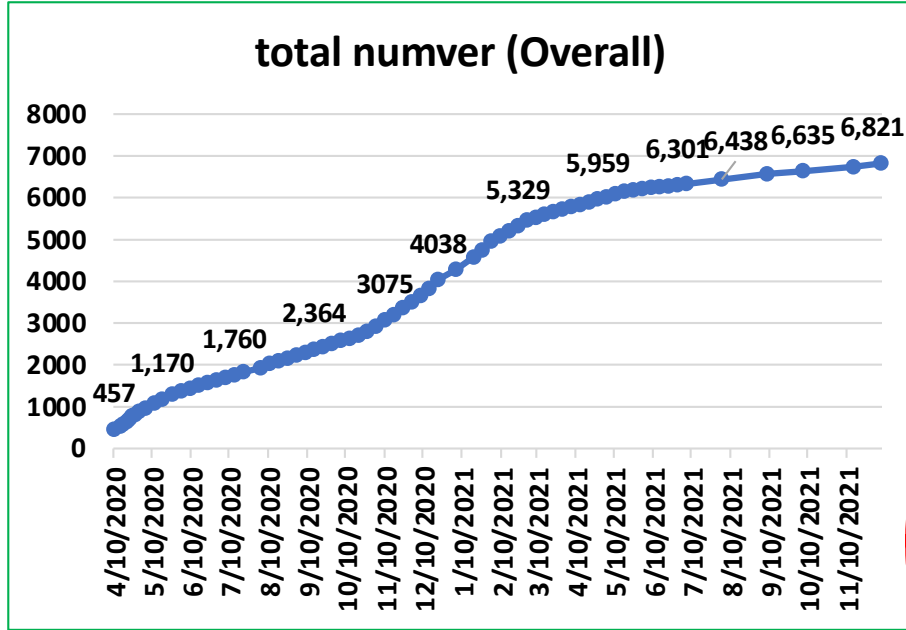
松本主之 松岡克善 松浦 稔 大宮直木  
飯島英樹 平井郁仁 石原俊治 仲瀬裕志  
久松理一

Brenner EJ, Ungaro RC, Colombel JF, Kappelman MD.  
SECURE-IBD Database Public Data Update.  
[covidibd.org](https://covidibd.org). Accessed on DEC/31/2021.

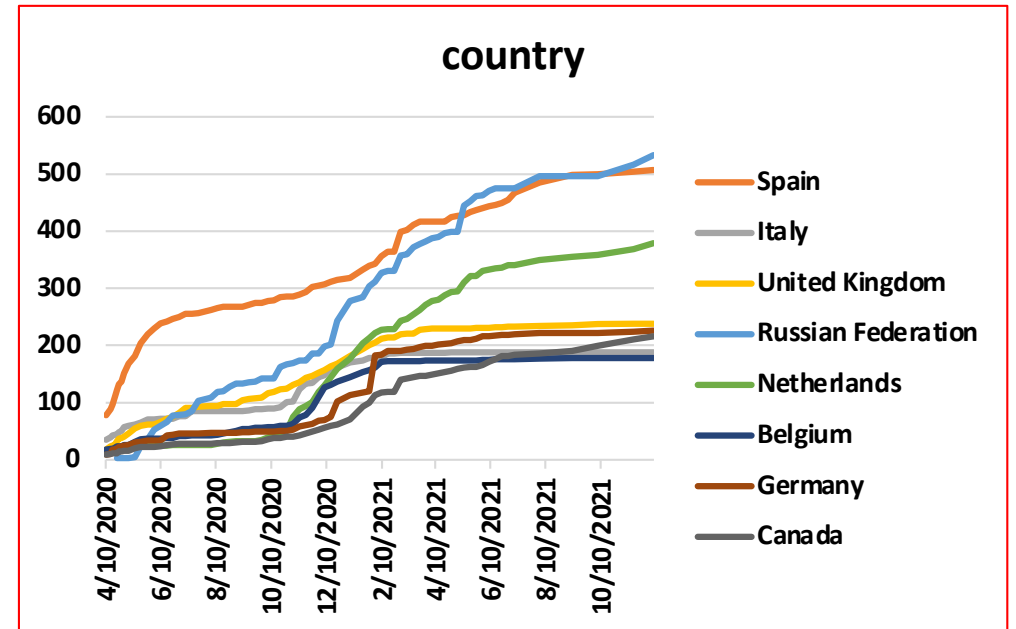
# COVID19感染IBD患者登録数の推移

# 登録数上位9カ国

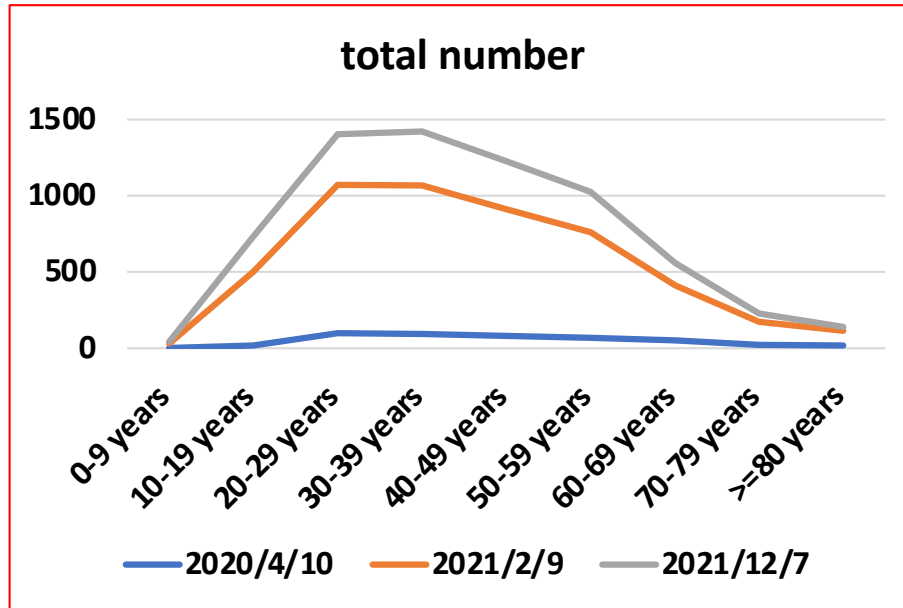
2021/12/07 現在  
Japan登録数: 90



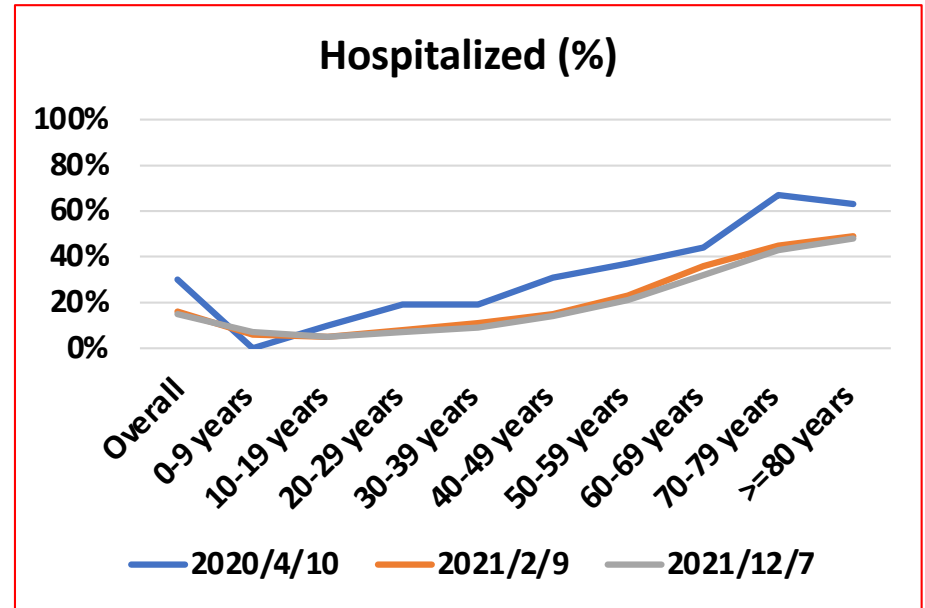
- アメリカ、ロシア、オランダ、カナダ以外の国では、新規の登録があまり行われていない。
- データ更新の頻度は約1か月毎に延長となったままである。



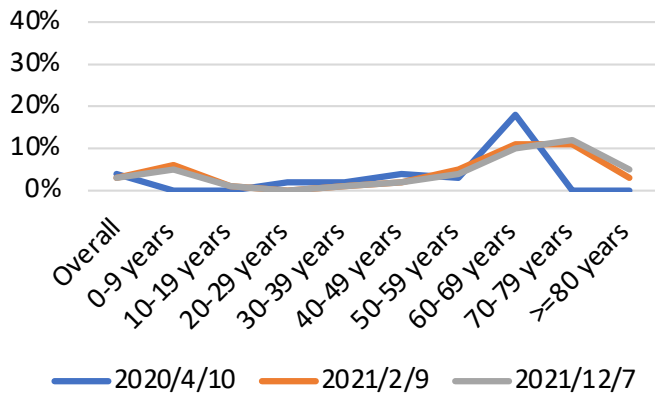
## 感染患者の年齢分布



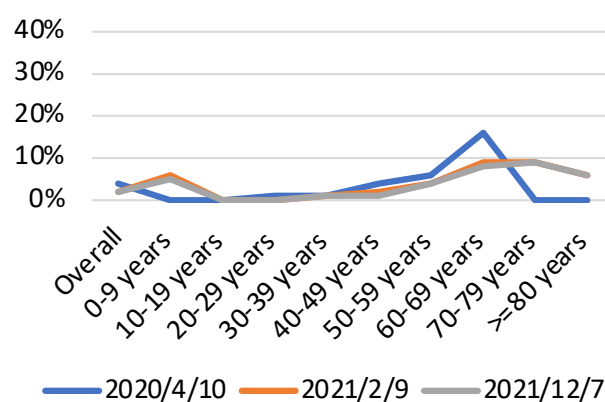
## 入院患者年齢分布



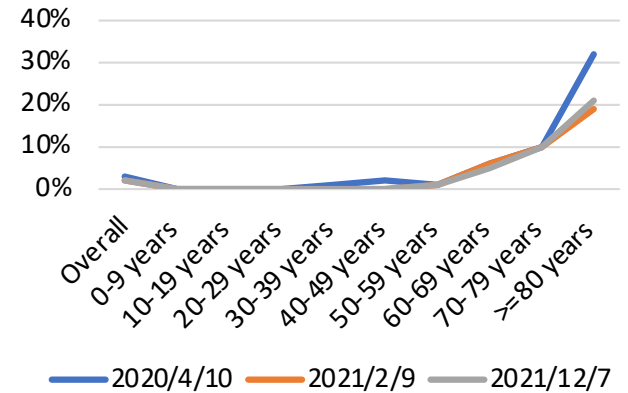
## ICU (%)



## Ventilator (%)

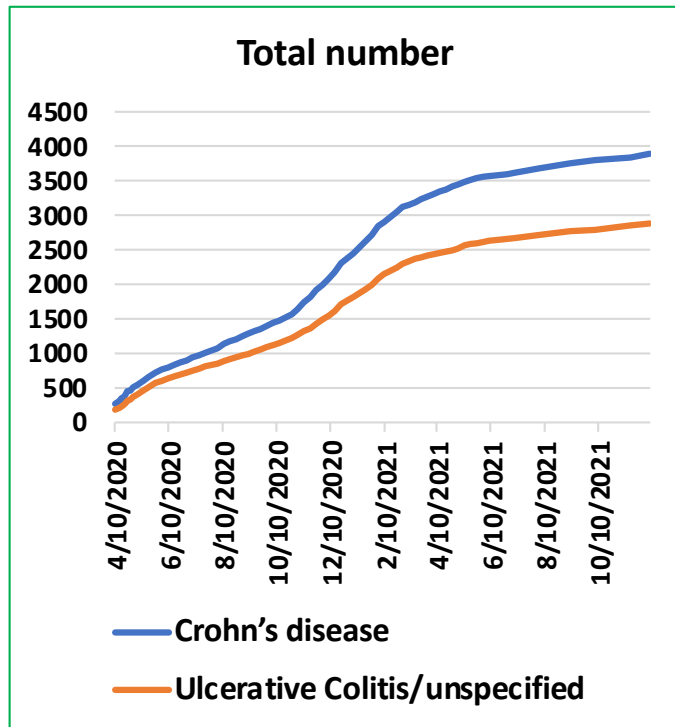


## Death (%)

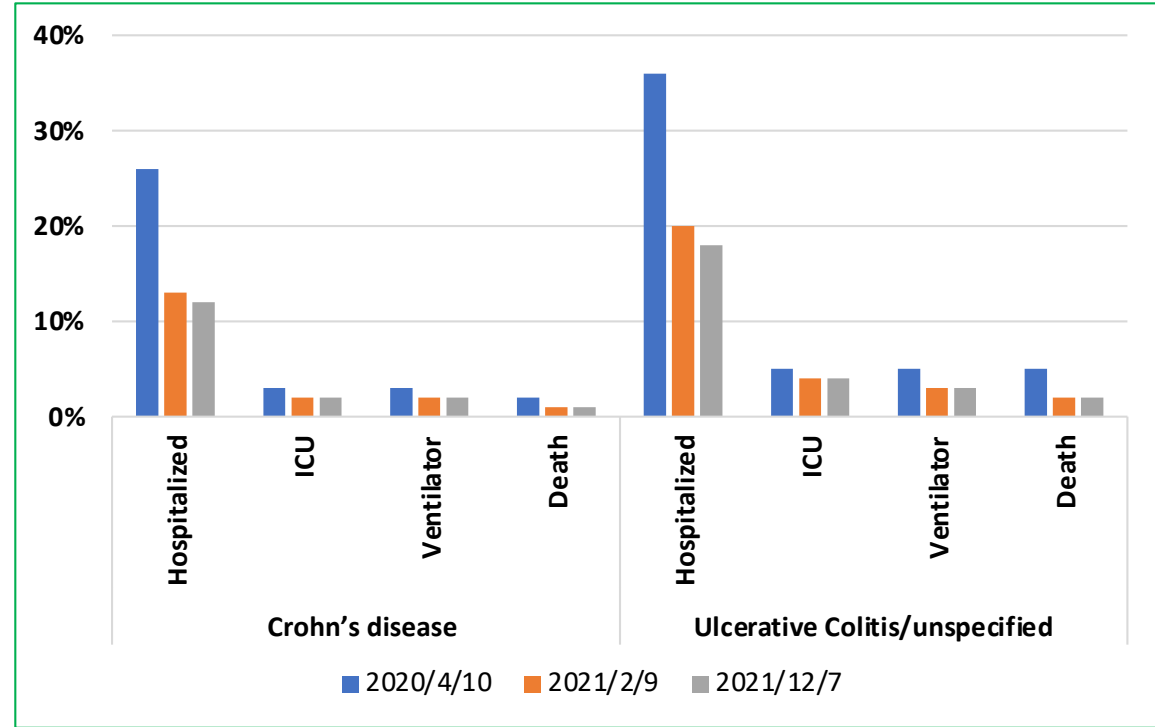


- 0-9歳は母数が少ないため評価が難しい。
- 高齢者の高い死亡率は現在も減少しておらず、60歳以上で高値となる。
- 高齢者の入院率は一度低下傾向になったが、その後は一定である。

## 疾患別患者数

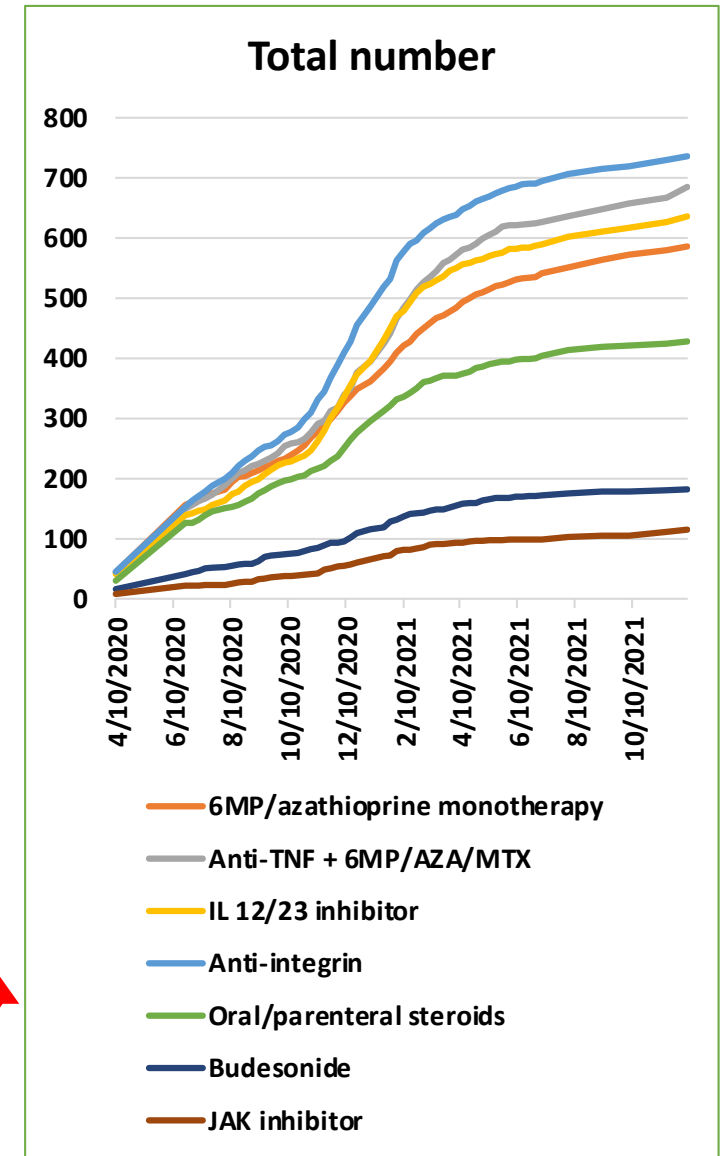
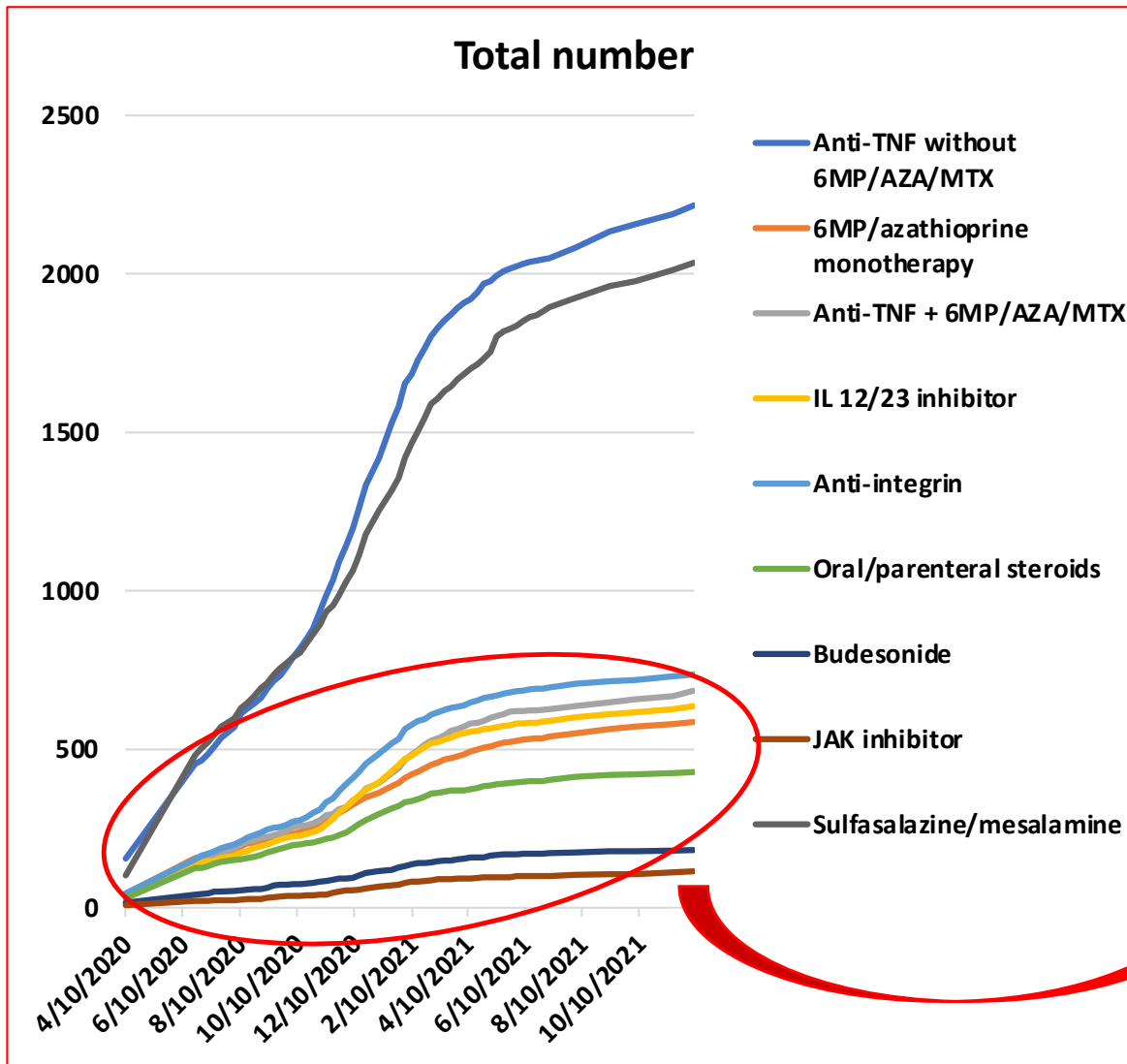


## 疾患別重症度の割合



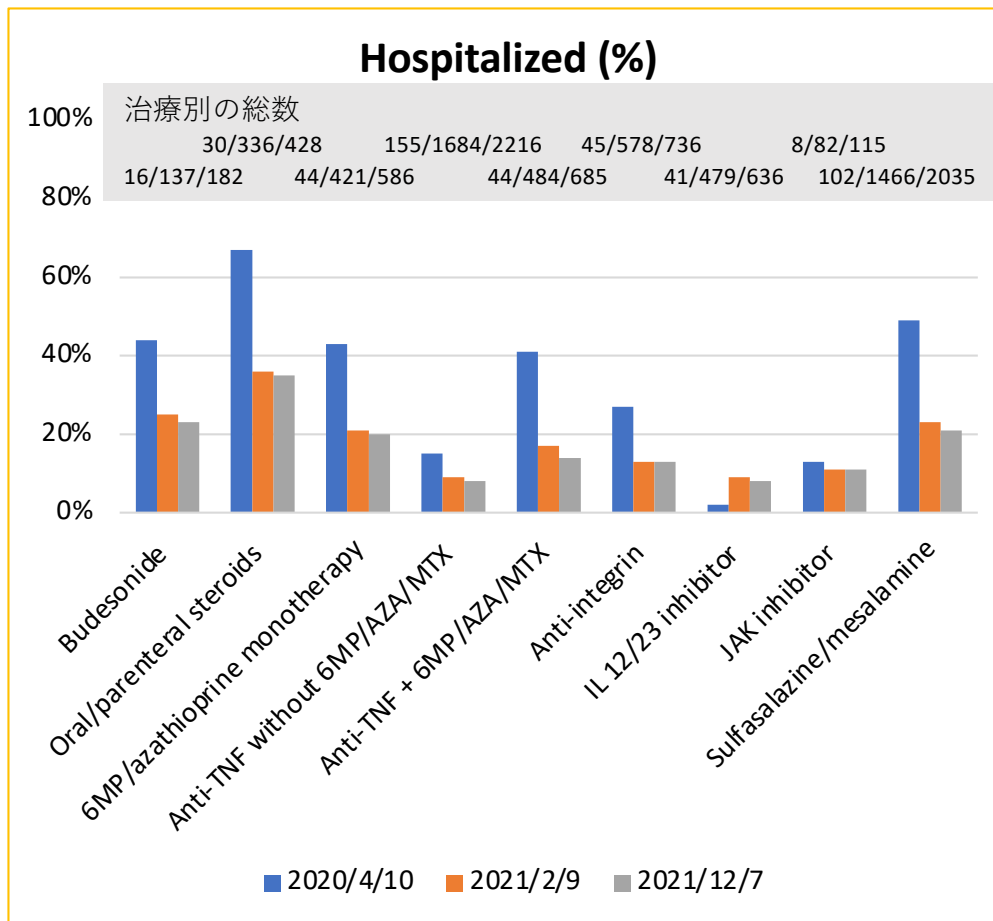
- 入院率、ICU管理率、人工呼吸器管理率、死亡率に関して、その差は大きくないものの、クローン病よりも潰瘍性大腸炎の方が高値が続いている。

# 治療別の患者数

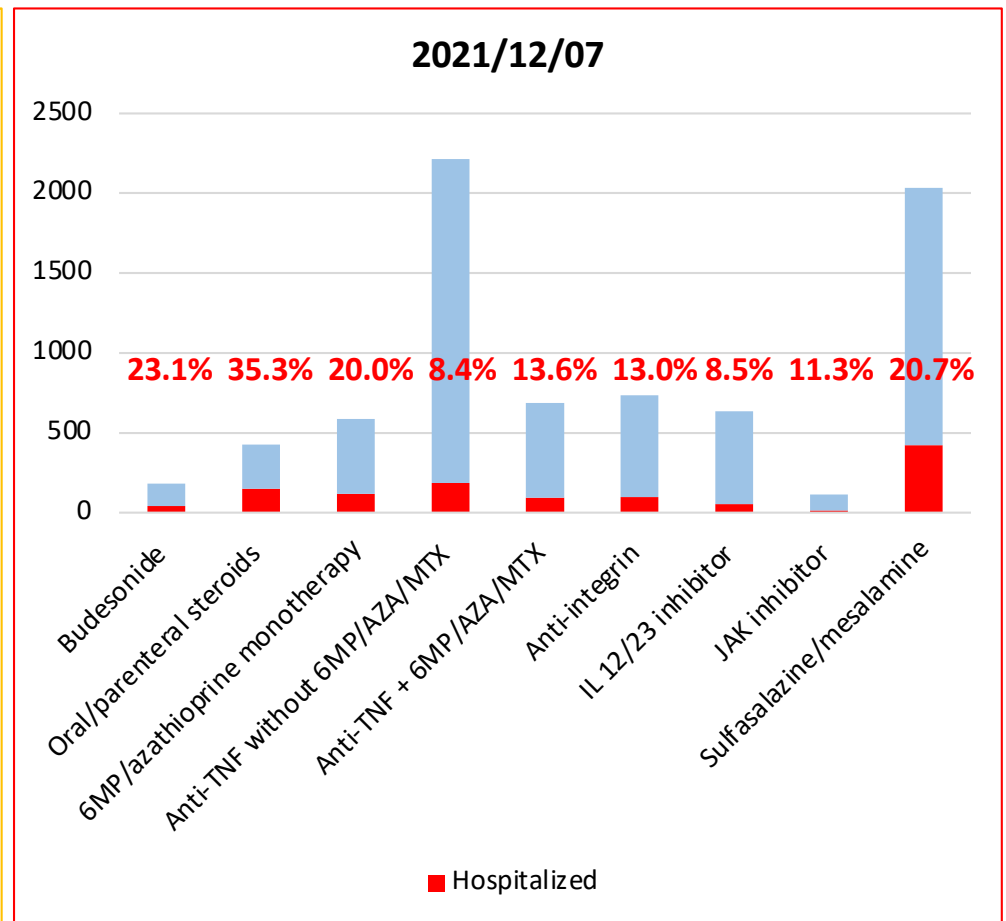


➤ **Anti-TNF without 6MP/AZA/MTX と Sulfasalazine/mesalamine の登録数は多く、Budesonide と JAK inhibitor の登録数が少ない傾向は変わらない。**

## 治療別の入院率の推移



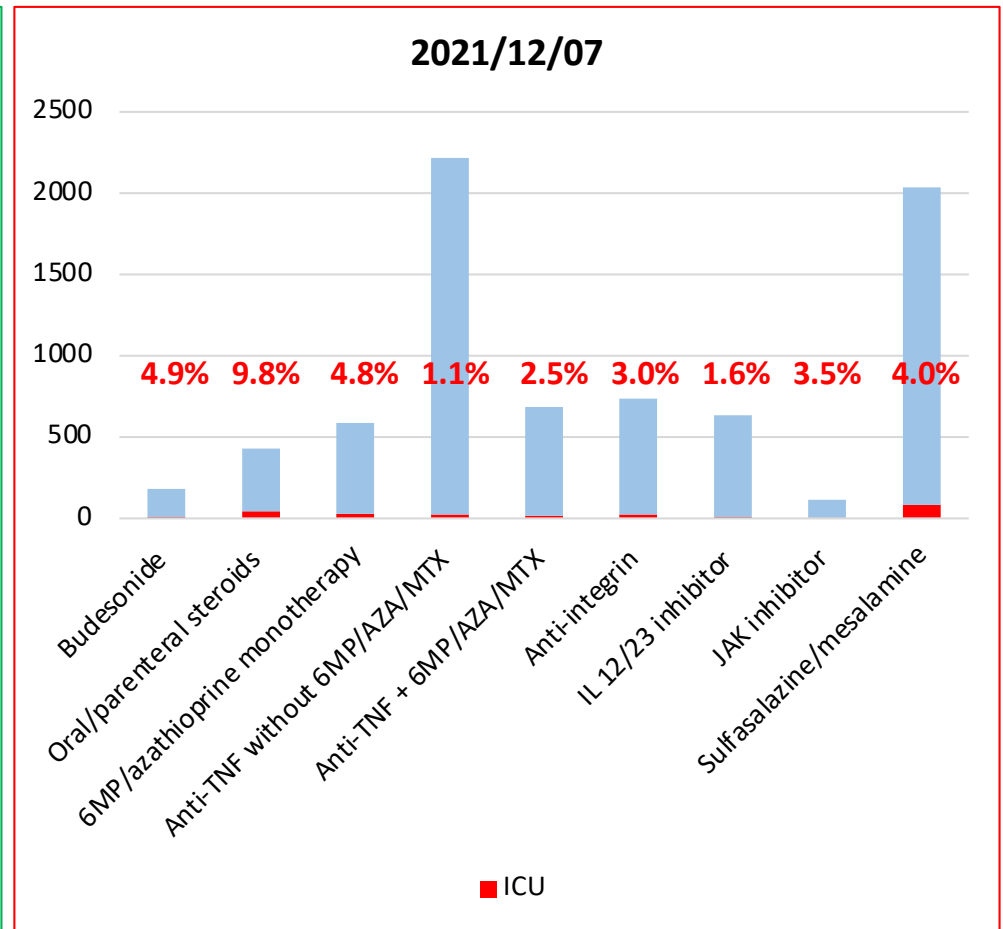
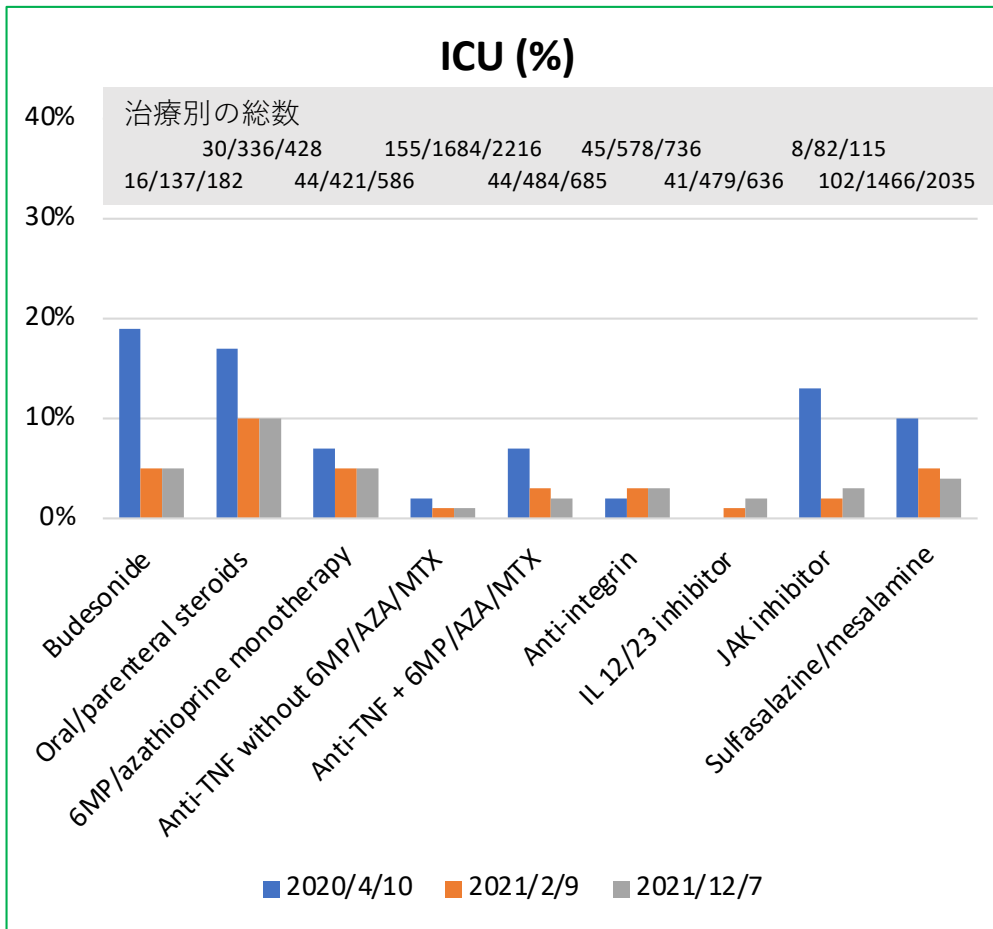
## 治療別の総数と入院率



- 入院率はsteroidsで高値、Anti TNF without 6MP/AZA/MTXとIL 12/23 inhibitorで低値である。
- Sulfasalazine/mesalamineの入院率は比較的高値であるが、併存薬の情報がないため単剤のリスクに関しては言及が難しい。

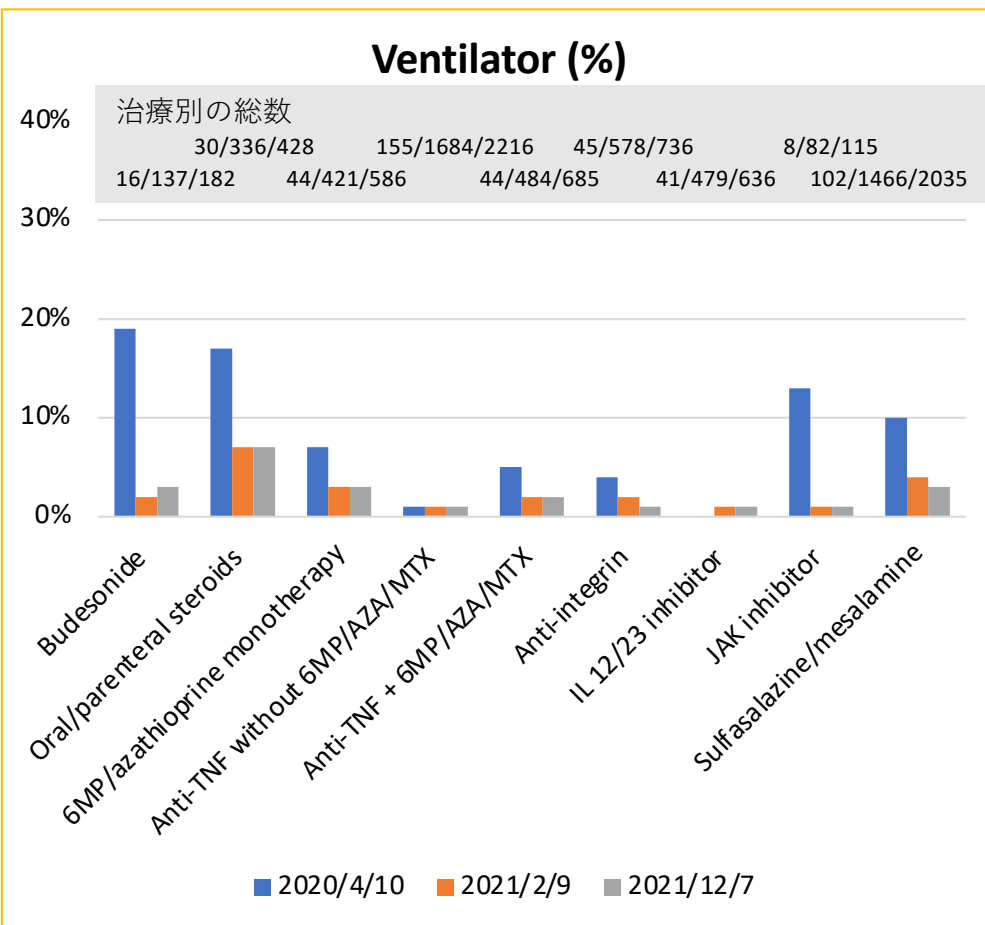
## 治療別のICU管理率の推移

## 治療別の総数とICU管理率

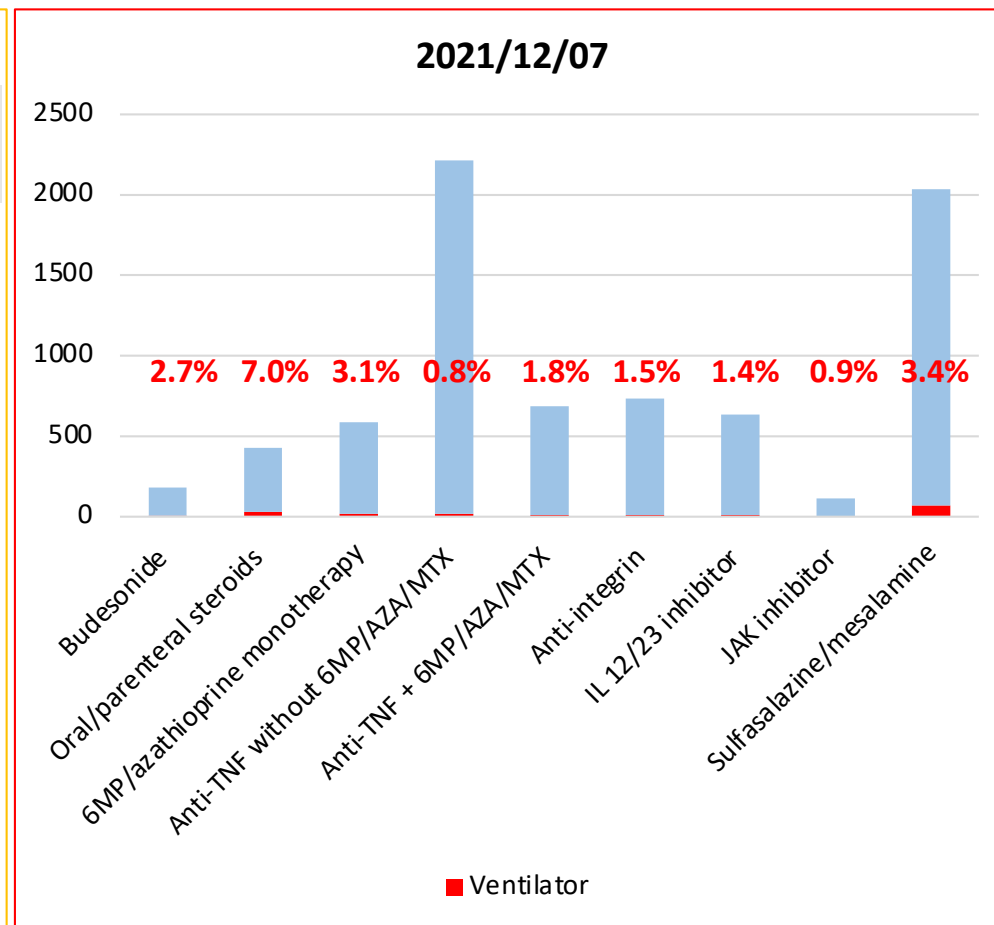


- ICU管理率もsteroidsで高値、Anti TNF without 6MP/AZA/MTXやIL 12/23 inhibitorで低値である。
- Sulfasalazine/mesalamineのICU管理率は比較的高値であるが、併存薬の情報がないため単剤のリスクに関しては言及が難しい。

## 治療別の人工呼吸器管理率の推移



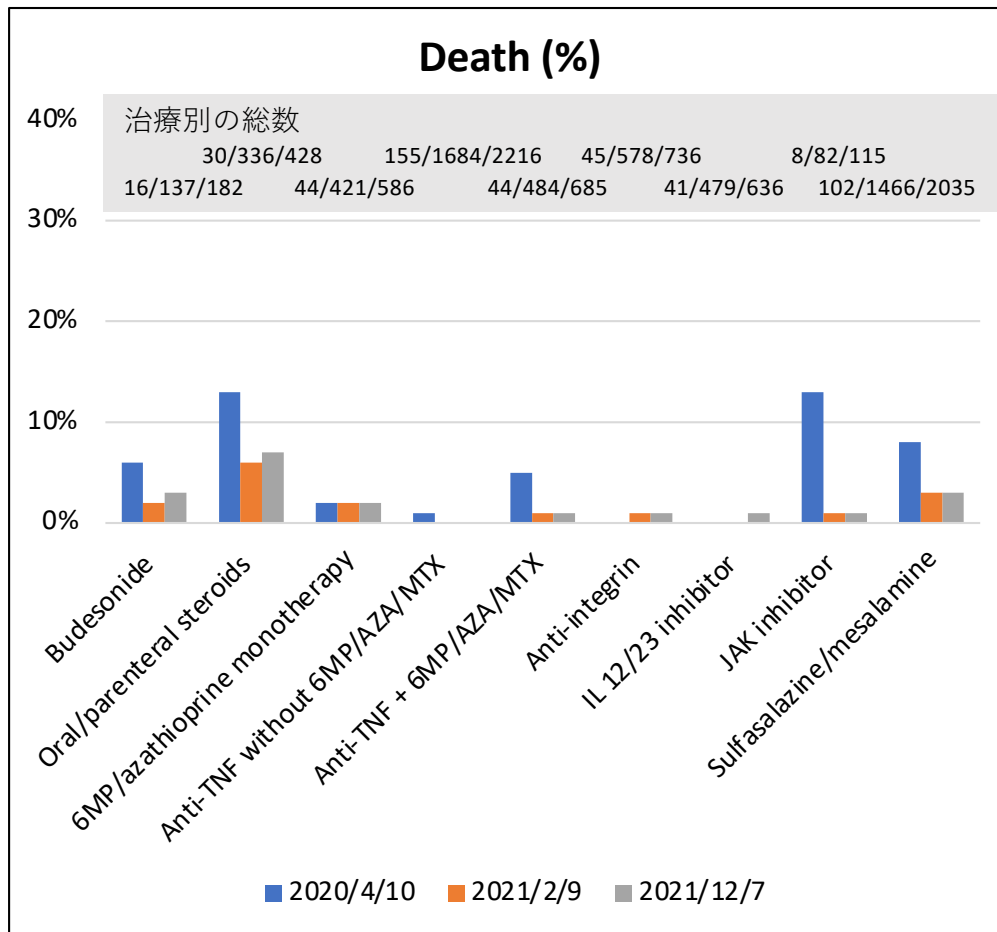
## 治療別の総数と人工呼吸器管理率



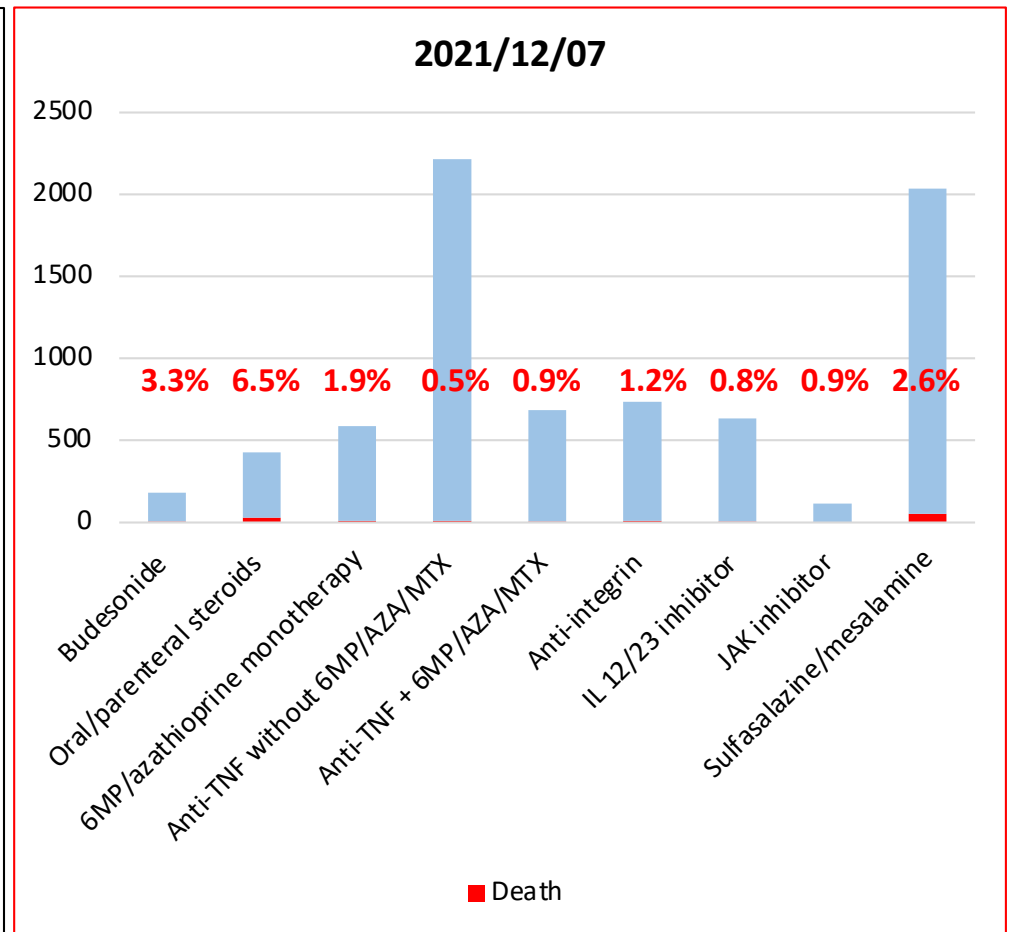
- 人工呼吸器管理率はsteroidsで高値、Anti TNF without 6MP/AZA/MTXで低値である。
- Sulfasalazine/mesalamineの人工呼吸器管理率は比較的高値であるが、併存薬の情報がないため単剤のリスクに関しては言及が難しい。



## 治療別の死亡率の推移



## 治療別の総数と死亡率



- 死亡率もsteroidsで高値、Anti TNF without 6MP/AZA/MTXで低値である。
- Budesonideの死亡率はOral/parenteral steroidsと比較すると低値であるが、他の治療よりは高値である。
- Sulfasalazine/mesalamineの死亡率は比較的高値であるが、併存薬の情報がないため単剤のリスクに関しては言及が難しい。